

確かな学力を身につけさせる小中連携教育の実践

霜川 正幸

Cooperation between Elementary Schools and Junior High Schools for Effective Learning

SHIMOKAWA Masayuki

(Received July 20, 2007)

キーワード：小中連携教育、推進体制整備、指導方法の工夫改善、地域との連携

はじめに

筆者は、中学校で起こる生徒の様々な不適應に対する中で、小学校との連携が極めて重要であると考えてきた。

子どもたちの中学校入学に対する不安や焦り、環境や仕組みの変化への不適應、他校出身者や教職員との新たな人間関係の不成立等による子どもたちの不安、孤独等が多くの問題を生んでいる。教職員の側でも、義務教育のスタートを任される小学校と、修了させ次の段階へ向かわせる中学校とでは、子どもに対する見方考え方や求める子ども像等が違うことが多く、お互いの不信と背反を生みやすい^①。

筆者は、小中連携教育は、小学校と中学校との学習や生活のスムーズな移行や、教育内容の一貫性・系統性を重視した教育制度であるにとらえる^②。

本稿では、筆者が勤務した周南市立須金中学校と隣接する須磨小学校の教職員の協力を得ながら取り組んだ、体制づくりや相互乗り入れ等の実践について紹介する。

1. 研究の背景

地域は、少子化、高齢化が進行する山間過疎地であり、教育への期待や、子どもを大切に育てる意識、気持ちも強い。両校は共に小規模校であり、体育館、運動場や学校管理農園等の施設を共有している。子どももお互いよく知っている。

そこで、筆者は教職員の協力を得ながら、9ヶ年の義務教育の責任を果たす観点から、児童生徒に「確かな学力」と「豊かな人間性」を身につけさせるため、小規模校の特長を生かした小中連携教育の在り方を研究してきた。その中で、小中連携を支える研修体制の確立や小中学校教職員間のより緊密な連携を図ることにより、各教科等における学習内容の系統性を理解し、児童生徒の学びのつながりをふまえた指導方法、指導技術等の向上に努めることが重要と考えるようになった^③。

そこで、連携を、児童生徒の視点から、小学校と中学校のつながりをよくすることととらえ、小中学校それぞれが責任を果たしながら、接続部分を段差でなくスロープとし、一人ひとりの学びを保証する一貫性ある教育の実践化を図ることとした。

*日本教育情報学会第23回年会にて一部発表、平成19年8月21日(常磐大学)

2. 研究の検証

研究の検証については、児童生徒による授業アンケート、行事後の反省表等による「評価」をとおして行うとともに、以下に留意しながら継続的に進めることとした。

- ・小中連携職員会議、部会において、小中合同で学習評価や学習面・生徒指導面等の協議、情報交換等を行うことにより、9ヶ年を見通した指導の成果を検証する。
- ・小中合同研修会において、小中合同の授業研究や協議等を行うことにより、小中連携教育や指導の在り方を検討し、指導技術や指導内容の工夫改善を行う。
- ・文化祭、学習発表の機会や広報紙等を活用し、児童生徒の学習成果や課題等を広く発表することや、学校評議員や地域住民からの意見集約等により、生徒の学習や生活の評価を行うとともに、課題意識の向上や意欲づけを行う。

3. 研究の概要と実際

(1) 推進体制、環境等の整備

①小中連携職員会議等の開催

児童生徒の学習、生活等に係る協議、情報交換や企画検討等

- ・年間5回：4月 7月 9月 12月 2月開催

②小中合同研修の実施

小中合同での授業研究と研究協議会開催

- ・年間5回：6月（小6国）9月（小6理）
12月（中3英）1月（小6国、中1国）

③小中連携の授業時間の確保

時程表（勤務時間割振表）の調整により

- 4・5校時開始時間を統一
- ・相互乗り入れ授業の時間を確保



(2) 指導方法、形態等の研究

①中学校から小学校へ（教員の乗り入れ、教科担任制の導入）

- ・中学校音楽科教員による小学校音楽科の指導（教科担任制：全学年）

総時数 低：2.0h 高：1.8h/週

内授業時数 低：2.0h 高：1.8h/週

- ・中学校理科教員による小学校理科の指導（教科担任制：高学年）

総時数 高：1.8h/週

内授業時数 高：1.8h/週

- ・中学校音楽、理科教員と小学校教員による小学校学習指導の工夫改善

②小学校から中学校へ（小中合同授業の実施と小学校教員による適応サポート）

- ・中学校美術科教員による小中合同美術の指



図1 小中連携教育の充実にに向けた取組み

導と小学校教員による適応支援

中1と小6合同授業 年間10h

- ・中学校体育科教員による小中合同体育の指導と小学校教員による適応支援

中全学年と小6合同授業 年間14h



③学習や諸活動の合同実施（児童生徒と両校教員の合同授業、活動）

総合的な学習の時間、学校行事等の小中合同実施による小中連携指導の充実

- ・梨の袋かけ体験、和紙絵制作、大運動会、ふれあい文化祭等



④指導資料の蓄積と共有化

小中年間指導計画の共有と相互理解の促進

- ・指導計画を全員配布と教科別情報交換、研修室での指導資料共有校種、学年や既習事項等をふまえた指導の工夫（指導内容の精選）
- ・教員座談会、情報交換会

(3) 小中連携教育研究協議会（学校、家庭、地域関係者）の開催

①年間3回：4/22、5/16、12/15

②連絡協議会で出た意見等

- ・小中連携教育の取組みに地域全体で協力する。
- ・小学校入学から中学校卒業までの9年間を貫いた一貫した指導が重要である。それを、保護者や地域社会が支援し、外部講師の派遣、学習場所や機会を提供する。
- ・小中学校の各種行事の積極的な広報展開と参加と働きかける。
- ・正しい姿勢、学習準備、応答の言葉遣いや発表の仕方等の望ましい学習規律や学習習慣の確立が大切で、小中同じ方針で指導して欲しい。家庭でも取り組む。
- ・今までの両校教育実践の成果をふまえた取組みや指導方法、形態等の研究をお願いしたい。
- ・両校教職員と保護者と地域住民が、共に活動し懇親する雰囲気を醸成したい。



(4) 地域に対する説明と学校、家庭、地域社会の連携による機運の醸成

①小中連携教育の重要性や取組みについて保護者や地域住民へ周知

- ・PTA総会、保護者会等での説明
- ・学校だより、PTAだより等広報紙の活用

②学校開放や関係機関との協議等を活用し地域ぐるみの教育に向けた機運醸成

- ・二校PTA連絡協議会での小中連携教育の取組み紹介と協力要請：年間2回



「学校だより やまびこ（平成17年5月17日）」

・校外補導協議会等とおした地域の関係機関、関係団体の巻き込み：年間2回

(5) 小中合同授業の実際（中学校1年と小学校6年の合同美術・図画工作）

小中連携教育にあつては、授業等の相互乗り入れによる他校種理解と発達課題の把握に立って、確かな学力の育成が期待できるとともに、中学校1年で急増する不登校や学校、集団に対する不適応の未然防止等の適応指導、生徒指導の充実が期待できる。専門性の高い授業の提供に加え、成長を育んできた小学校教員のサポートにより、生徒一人ひとりに対するよりきめ細かな指導を充実させる必要を感じている。

そこで、中学校美術科教員による小・中合同美術（図画工作）の指導と、小学校教員による適応支援を行っている。それぞれの発達に応じて指導内容や授業時数等が異なることをふまえ、中学校1年生と小学校6年を対象に、各学期に4～5時間程度で、合同で学習できる内容を、小学校教員はゲストティーチャーとして中学生の個別支援を中心という条件で行っている。

以下は、6月に行った合同美術の指導事例（概要）である。

中学校1年・小学校6年 合同美術・図画工作 学習指導案

指導者（中）○ ○ ○ ○

1 題 材 奥行きを感じられる空間

(1) 遠近法や透視図法の魅力（1/7：2時間連続配当）

2 主 眼

- ① 身近で立体感や奥行きを感じさせる場面や風景を捉えることをとおして、そう感じさせる理由や描画の仕方等「奥行き表現」の基礎的技法について理解することができる。
- ② 遠近法や透視図法等を活用して、身近な空間を表現することをとおして、「奥行き表現」の楽しさを味わうことができる。

3 準 備 鑑賞用作例、上級生作品、KJ法用具、描画用具、画用紙、スケール

4 参加者 GT（ゲストティーチャー）として小学校6年担任が参加

5 学習過程

学 習 活 動 ・ 内 容	配 慮 事 項 ※評価（観点）〔評価方法〕
1 学習に向かう準備状況を確認する。	・授業に臨む心構え、準備物等を相互に確認させ、学習用具の不足等に対応する。
2 参考作例「冬枯れの道路（岸田劉生）」、「雪原（横山ミサオ）」を掲示し、「奥行き表現」の印象を発表する。	・小学生の自由発表に続いて中学生に発表させ、学習の成長が表に出るように配慮する。 ・GTは、中学生と小学生の間でコーディネーター役を務めるとともに、中学生の学習支援を行う。



※「奥行き表現」の魅力について、意欲的に発言しているか。(関心・意欲) [発言、反応]
 ※小・中合同授業で、お互いのよさや成長を尊重しようとしているか。(態度) [発言、反応]

奥行きが感じられるような表現方法にチャレンジしよう！

3 身近で立体感や奥行きを感じさせる場面、風景や作品を挙げる。

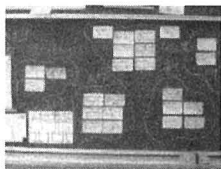
・一人ひとりの生活体験や経験を活かし、学習に意欲と楽しさを持って入り込めるよう配慮する。
 ・高速道路、廊下、桜並木、造形作品、レース、風景画等について、GTと協力しながら指摘し板書しておく。

4 5枚の参考作例、写真や板書等から、奥行きが感じられる理由や、感じさせる描き方等を考え、KJ法により整理する。

- ・ポストイット記入
- ・黒板への掲示とグルーピング
- ・意見発表と特徴理解

・既習内容や様々な体験から、濃淡、大小、明暗、太細、配色等について考えさせ、ポストイットに記入させるとともに、掲示、グルーピングを行う。

・GTと協力して、特徴の見取りに際してのアドバイスを行うとともに、記入の仕方等を指導する。
 ・GTは、中学生に対して肯定的に支援する。
 ・感覚を重視することから、児童生徒のグルーピングと特徴整理を活かしながら描き方をまとめる。



※遠近法、透視図法等の技法や配色等について、特徴をつかんでいるか。(鑑賞・技能) [観察、発表]
 ※お互いの発想や理解を尊重し、向上させようとしているか。(発想・態度) [発言、反応]

5 立体表現等の技法を学習し、基本的な用語や作図の仕方について理解する。

- ・斜投影図、等角投影図の練習
- ・一点透視図法 (立方体、タイル)
- ・二点透視図法 (椅子、建物)

・投影図の描き方を示し、例題をもとに描き方を練習させる。
 ・鉛筆による陰影の塗り分けや彩色の指導をする。
 ・小学生には個別指導が必要な内容であることから、GTとともに対応する。

6 校舎廊下をスケッチする。



・練習をもとに自由に描かせる。
 ・小学生には、消失点の取り方、凹凸や消化器、掲示板の配置の仕方等を例示し理解させる。
 ・GTは、中学生に対して、基準線の角度、本数等に意識しながら描くよう支援する。

※立体表現や遠近法の描き方を理解し、条件をとりえて、創意工夫をこらしながら描いているか。(関心・意欲、技能) [観察]

※小・中学生が共感しあいながら、スケッチの楽しさや喜びを感じているか。(態度)[観察]

以下略

4. 成果と課題

(1) 小中合同授業後の生徒の感想から (美術)

「久しぶりに小学校に戻ったようで懐かしかった。遠近法は、あまり上手く描けなかったけれど、小学生よりは上手く描けてほっとした。〇〇先生も一緒に、いろいろ話をしながら描いた。小学校の頃の話もしたけど、中学校でも頑張ろうかなという気持ちにもなった。」

小学生との交流により自分の心を開くこともできたようである。入学当初寂しさを感じたこともあったと思われるが、制度的に小学生や小学校教員との交流が可能となる合同授業は心のケアにもなると感じる。

小学生は、中学生の作品や学習状況を模範にし、自らの学習を高めたり、中学校の授業や学習規律を体験することをとおして、学習や授業に対する自己点検や意識改善を図ることもできる。異学年交流による教え教えられる人間関係づくりの経験もできた。

また、小中学校教員にとっても、美術や図画工作指導のあり方や重点の共通理解や小学校期から継続した生徒指導、児童生徒理解に効果があると実感できた。

(2) 成果と課題

- ① 小中連携職員会や合同研修会の開催、小学校での教科担任制、中学校での合同授業や合同行事の導入等をおして、各教科等における学習内容を系統的に把握し、児童生徒の学びのつながりをふまえた指導方法や指導技術等を向上させることが必要であると共通理解されてきた。全小中学校教員が9ヶ年の指導計画等を理解した上で授業等を展開することができはじめた。
- ② 小学校と中学校は、児童生徒の成長を長いスパンで見通しながら、各段階に応じた指導を行い、小中連携をいかす努力が求められることが理解されてきた。
特に、児童生徒の成長段階を追いながら、お互いの「見方、考え方」を十分に理解し進めていくことが大切と認識され始めた。
- ③ 学習をより充実させるため、9ヶ年というスパンを貫いて、望ましい学習規律、学習習慣を指導する重要性が理解され、取り組まれ始めた。
- ④ 錯綜する行事、出張の増加等により日課が流動化する状況において、小中学校の授業時間や時間帯が違うことから、日課編成等の工夫が必要である。
- ⑤ 合同実施、指導をする際、9ヶ年の発達段階の差は大きく、指導内容、方法等に一層の研究、工夫改善が必要である。

参考文献

- 1) 児島邦宏、佐野金吾「中一ギャップ克服プログラム」(2006) 明治図書
- 2) 山口県教育委員会「山口県教育ビジョン推進の手引き」(2006)
- 3) 山口県教育委員会「山口県教育ビジョン」(1998)